

et Sav.) であるとしてしまえば簡単のようでもあるが、現在のように種々の生物が外国から入ってきている状況をも考えてみると、摂津市や東大阪市のものがもともと日本にあったものかどうかはよく分からない。そのため、単純にオオアカウキクサ (*A. japonica* Franch. et Sav.) としてしまうことはできない。関西だけでなく、日本の各地のオオアカウキクサと呼ばれてきた植物を調べ、それがどのような形質を持っているのかについて、もう少し詳しく研究し、それらと比較検討することによって、より正確なことが分かってくるようになると思われる。

一般に *Azolla* は、孢子嚢果をつける時期は限られており、また必ずしも孢子嚢果を形成するとは限らないので、孢子嚢果を用いての分類には困難さがつきまとう。孢子嚢果がなくても孢子体だけで同定できる分類基準も現在は研究されているようである。その成果が早く得られることも期待したい。

引用文献

Lin, You-Xin. 1980. A Systematic Study of the

Family Azollaceae with Reference to the Extending Utilization of Certain Species in China. *Acta Phytotaxon. Sin.* 18: 450-456.

Lumpkin, T. A. and Pluncknett, D. L. 1980. *Azolla*: Botany, Physiology, and Use as a Green Manure. *Econ. Bot.* 34: 111-153.

Rothwell, G. W. 1994. Phylogenetic Relationships among Ferns and Gymnosperms; an Overview. *J. Plant Res.* 107: 411-416.

Shi, Ding-Ji and Hall, D. O. 1988. The *Azolla-Anabaena* Association: Historical Perspective, Symbiosis and Energy Metabolism. *Bot. Rev.* 54: 353-386.

Svenson, H. K. 1944. The New World Species of *Azolla*. *Amer. Fern J.* 34: 69-84.

田中俊雄. 1994. オオアカウキクサの観察. 遺伝 48: 108-111.

渡辺 巖. 1991. アゾラ・ラン藻共生系の窒素固定に関する研究とその応用. 肥料科学 14: 85-114.

○愛知県植物誌調査会編集・発行『植物からのSOS—愛知県の絶滅危惧植物』（1996年3月, 128p, 頒価2,500円）

最近になって何冊かの地方版レッドデータブックが出版されたが、その中では異色であり、かつ出色と言ってもよいかもしい。まず巻頭に自然林、・・・、湧水湿地、溜池・水路、水田、・・・、と、それぞれの環境と代表的な植物を紹介した図版がくる。写真が美しいだけでなく、それぞれの環境がうまく表現される写真が選ばれていることに感心する。

本文は、まず概説である。「なぜ植物を保護するのか」に始まって絶滅危惧植物の現況や、危機的状況を作りだしている原因へと、本文の執筆者である芹沢俊介愛知教育大教授の主張や憤りが伝わる筆致で書き進められていて、たいへんおもしろい。後半は「要保護種の現状」で、危機に瀕する350種について、植物についての解説ならびに現状の説明が加えられる。この中に多くの水草が含まれているのは想像に難くないが、マツモ、トチカガミ、セキショウモなどまで含まれている。これには驚いた

が、解説を読むとうなずける。それが愛知県の現実なのだ。自分の地域を見直す意味でも、ぜひ一読をお薦めする。

なお、水草研究会会員であることを明記して申し込まれると送料は無料、また10部以上は1割引にしてくれます。

申込先 郵便振替 00820—7—20001

愛知県植物誌調査会

(〒448 刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学生物学教室内)

* 昨年から今年にかけて、他にもいくつかの地方版レッドデータブックが発行されています。そのいくつかを入手していますので次号で紹介致します。

(角野康郎)